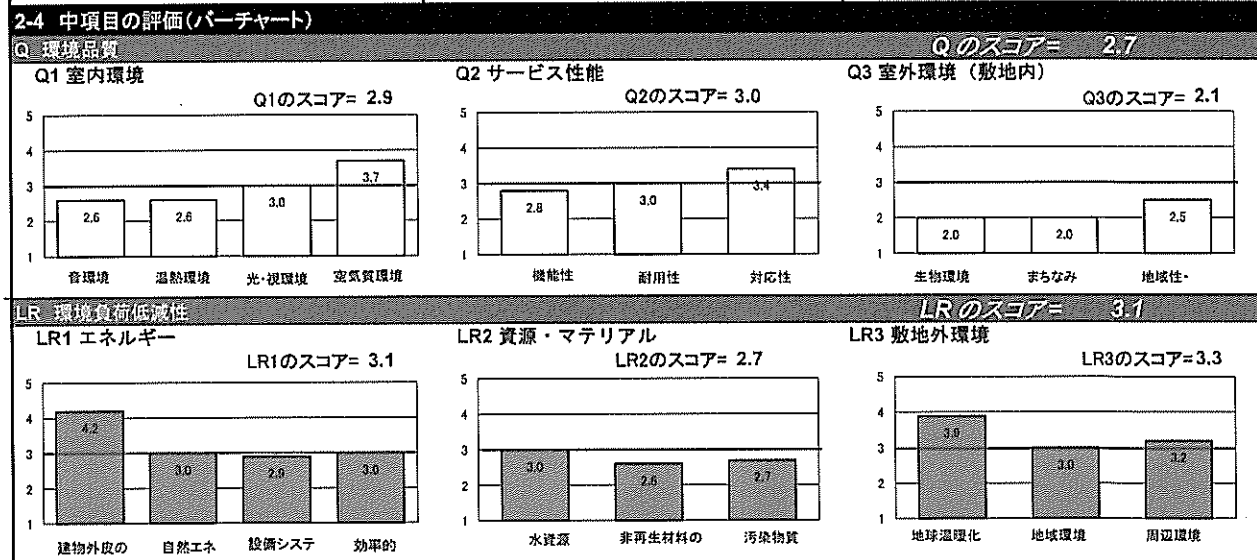
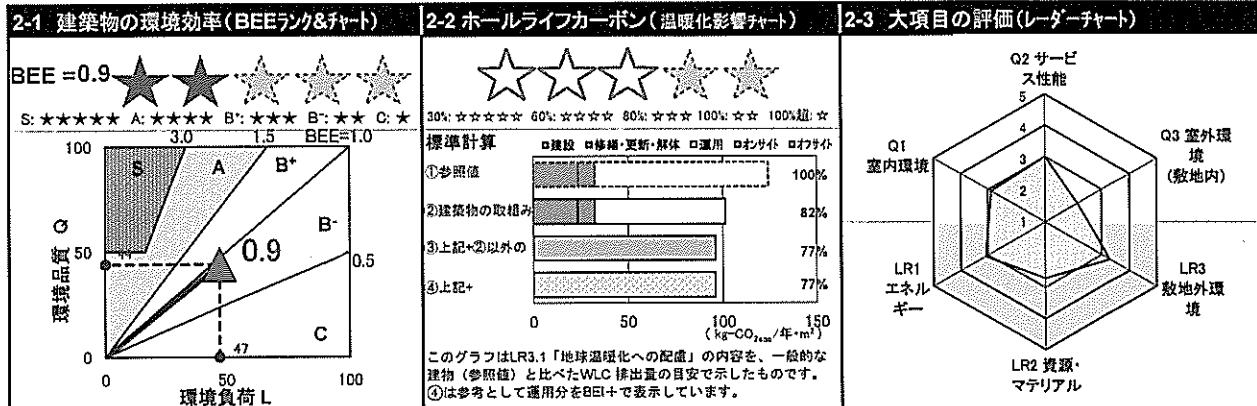


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	〈仮称〉ロイヤルプロ城陽 新築工事	階数	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	
建設地	京都府城陽市久世荒内300番地及	地上2F		
用途地域	準工業地域・準防火地域	構造		
地域区分	6地域	平均居住人員		
建物用途	物販店	年間使用時間		
竣工年	2026年9月 予定	評価の段階		
敷地面積	4,227 m ²	評価の実施日	2026年2月5日	
建築面積	1,592 m ²	作成者	宮本裕也	
延床面積	2,876 m ²	確認日	2026年2月5日	
		確認者	宮本裕也	



3 設計上の配慮事項		
総合	メイン道路に面する壁面はできるだけ後退させた位置に配置し、周囲への圧迫感の軽減に配慮した計画とした。また、来客用に十分駐車スペースを確保し、公共の交通の流通性に配慮します。	その他 特にありません。
Q1 室内環境	仕上材等にF★★★★の材料を使用し、有害物質の発散を小さく抑えるように配慮します。	Q2 サービス性能 店内はバリアフリー仕様とし、廊下の幅を大きく取り、来客の移動をスムーズに行えるように配慮します。
Q3 室外環境(敷地内)	計画敷地内にはできるだけ植栽を計画し、周囲の環境に配慮し、良環境の創設・維持に努めます。	
LR1 エネルギー	照明機器はLED機器を使用し、空調機器に関してはCOPの高い機器を使用します。	LR2 資源・マテリアル 躯体+鉄鉄+仕上材のディテールを採用します。
LR3 敷地外環境	空調機器はノンフロン冷媒を使用し、排熱に関しても直接道路に排出しないように配慮します。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

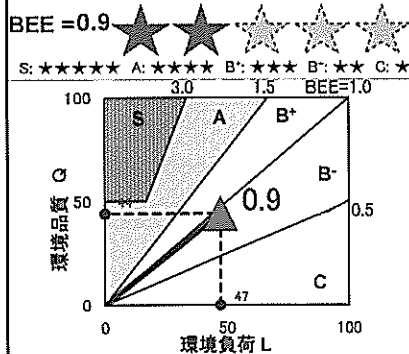
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ロイヤルプロ城陽 新築工事	階数	地上2F
建設地	京都府城陽市久世荒内300番地及び	構造	S造
用途地域	準工業地域・準防火地域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,200 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	
竣工年	2026年9月 予定	評価の実施日	2026年2月5日
敷地面積	4,227 m ²	作成者	宮本裕也
建築面積	1,592 m ²	確認日	2026年2月5日
延床面積	2,876 m ²	確認者	宮本裕也

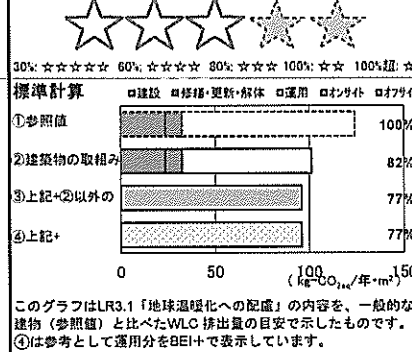
外観パース等

図を貼り付けるときは
「」の保護を解除してください

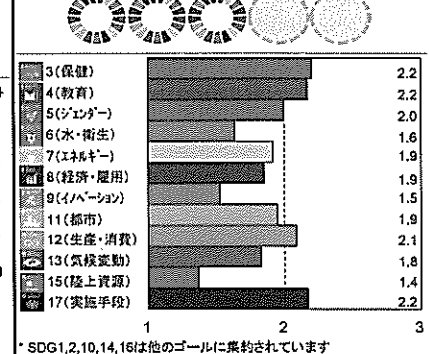
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



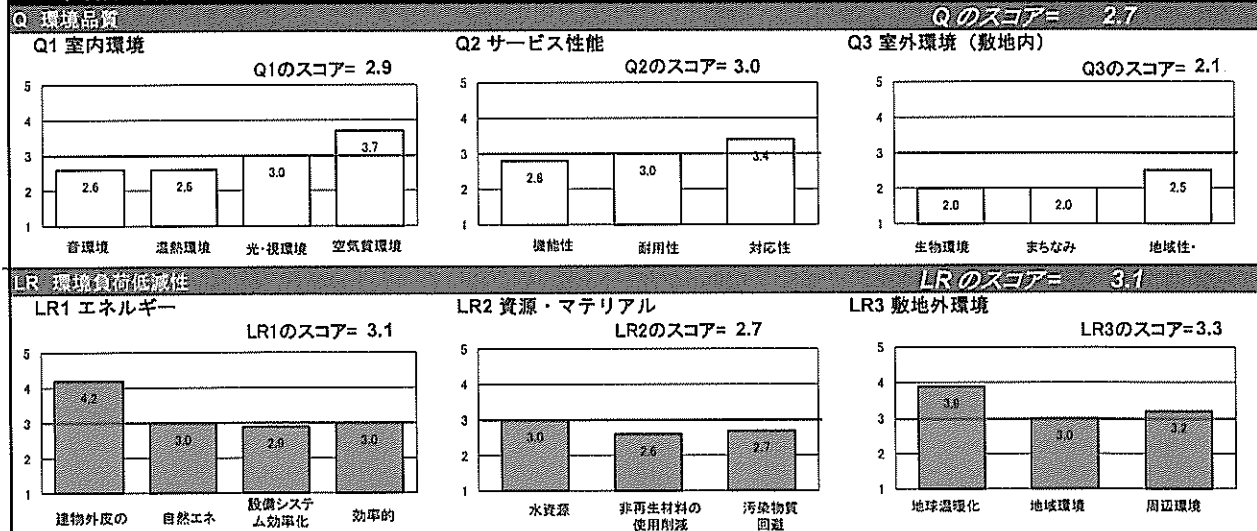
2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)



2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
メイン道路に面する壁面はできるだけ後退させた位置に配置し、周囲への圧迫感の軽減に配慮した計画とした。また、来客用に十分駐車スペースを確保し、公共の交通の流通性に配慮します。		特にありません。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
仕上材等にF★★★★の材料を使用し、有害物質の発散を小さく抑えるように配慮します。	店内はバリアフリー仕様とし、廊下の幅を大きく取り、来客の移動をスムーズに行えるように配慮します。	計画敷地内にはできるだけ植栽を計画し、周囲の環境に配慮し、良環境の創設・維持に努めます。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
照明機器はLED機器を使用し、空間機器に関してはCOPの高い機器を使用します。	躯体+鉄鉄+仕上材のディテールを採用します。	空調機器はノンフロン冷媒を使用し、排熱に関しても直接道路に排出しないように配慮します。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のことで、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される